

カービュー マーケットウォッチ (2010年9月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

駆け込み需要により乗用車全体で40.1%増!

10年8月順位	10年7月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	22,263
2	(2)	→	フィット	ホンダ	17,258
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	12,809
4	(5)	↑	フリード	ホンダ	11,232
5	(4)	↓	カローラ	トヨタ	10,705
6	(9)	↑	デミオ	マツダ	8,943
7	(7)	→	ステップワゴン	ホンダ	8,091
8	(6)	↓	パッソ	トヨタ	7,612
9	(8)	↓	セレナ	日産	6,847
10	(10)	→	ヴォクシー	トヨタ	6,706
11	(12)	↑	ノート	日産	6,225
12	(14)	↑	ノア	トヨタ	5,941
13	(18)	↑	ラクティス	トヨタ	5,058
14	(13)	↓	マーチ	日産	4,862
15	(22)	↑	インサイト	ホンダ	4,751
16	(11)	↓	ウィッシュ	トヨタ	4,659
17	(17)	→	エスティマ	トヨタ	4,547
18	(15)	↓	キューブ	日産	4,436
19	(16)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	4,301
20	(20)	→	ティーダ	日産	4,244

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■駆け込み需要により乗用車全体で 40.1%増！

1～8月累計でも金融危機以前の08年を上回る

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した8月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車全体は36万9211台で、前年同月比140.1%と13カ月連続で前年を上回った。前年同月比が2ケタ増になったのは10カ月連続だが、4割増という大幅な伸び率は、9月7日に終了した新車購入補助金制度に対する駆け込み需要の結果。1～8月の累計も306万1724台、前年同期比123.5%と好調で、復調の目安となる金融危機以前の08年データと比べても、8月単月では44.6%増と4カ月連続のプラス、1～8月累計でも3%増と今年初めて上回った。新車購入補助金制度が終了し、その反動が不安視されているが、エコカー減税は2012年まで継続される。今後の売れ行きに要注目だ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（新型日産マーチ分含む）は25万3517台で、前年同月比149.9%と絶好調。メーカー合計ではダイハツが5カ月連続で前年を下回った（軽乗用車分を含めれば前年同月比はプラス）が、106.1%のスズキ以外は2ケタ増を続けている。月間ランキングでは16カ月連続トップの「トヨタ プリウス」を含め、2位「ホンダ フィット」、3位「トヨタ ヴィッツ」のトップ3は8カ月連続で同じ顔ぶれで、4位には7月にスパイクを追加した「ホンダ フリード」がランクアップした。「フリードスパイク」はフリード全体の約4割を占める4240台と好調な売れ行きだ。

軽乗用車は10万1434台で、前年同月比121.1%と6カ月連続のプラス。貨物車を含めた軽自動車全体では13万4197台と8月単月としては過去最高を記録し、08年データと比べても全体で15.5%増、軽乗用車部門のみで13.8%増となった。

輸入乗用車は新型マーチなどの日本メーカー製を除いた海外メーカー製のみでは、1万3887台、前年同月比138.3%と10カ月連続のプラス。輸入乗用車全体では1万8983台で、前年同月比179.1%と単月の伸び率としては過去最高を記録した。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が3898台で8カ月連続トップ。2位は2424台でBMW（MINIを除く）が4カ月連続、以下、3位メルセデス・ベンツ2271台、4位アウディ1214台、5位MINI944台で、いずれも前年同月比は69.3%プラスのVWを筆頭に2ケタ増になっている。

■ココも気になる！その1

日産が新車ラッシュで好スタート！

08年9月に巻き起こった世界的な金融危機により、日本のクルマ販売も一気に低迷。10月こそ貨物車を含めた全販売台数で前年同月比93.4%にとどまったが、11月以降、81.8%、83.3%、80.1%、75.7%と下落を続け、最量販月の09年3月には74.7%まで落ち込んだ。そんななか、公的支援策として4月からエコカー減税&新車購入補助金制度がスタート。これが次第に効果を上げ、昨年9月から前年を上回る売れ行きに回復。今年は上半期累計で前年同期比121.5%となった。

日産は昨年こそモデルチェンジの端境期でやや復調傾向に乗り遅れた感もあったが、今年は6月発売の「ジューク」を皮切りに新車攻勢を開始。そして7月「マーチ」、8月「エルグランド」と矢継ぎ早にモデルチェンジを敢行した。

ジュークは発売後約1カ月で1万台超の受注を集め、6月4725台、7月3835台、8月1962台と月間販売目標1300台を連続クリア。マーチも9月1日時点で受注累計が2万台を超え、7月7050台（新型5505台）、8月4862台（新型4723台）とモデルライフ平均の月間販売目標4000台を上回る出足となった。そして8月18日発売のエルグランドは発売後約2週間で月間販売目標1900台の5倍強となる1万台超の受注を獲得。8月は3415台で登録車月間ランキング25位と4年9カ月ぶりにトップ30入りを果たした。

さらに日産は10月に「フーガハイブリッド」を追加し、ハイブリッドカー戦線に参戦。数々の世界初の技術が投入されるだけに期待大だ。また12月にはすでに2010年度販売目標6000台の予約を集めた電気自動車（EV）の「リーフ」の販売を開始し、ロングセラーミニバン「セレナ」をモデルチェンジと攻め手には事欠ない。昨年度ホンダに奪われた国内販売台数2位の座を奪還できるか、要注目だ。

■ココも気になる！その2

VW が3カ月連続で月間最高記録を更新

エコカー減税&新車購入補助金制度が国産車メインの支援策だったこともあり、回復が遅れていた輸入車市場だが、輸入自動車特別取扱制度（PHP）の弾力運用と各インポーターの対象モデル導入努力により、売れ行きが向上。1~8月累計では海外メーカー製のみで11万7372台、前年同期比118.6%まで復調した。ただ金融危機前の08年データと比べると、8月単月では136.1%だが、1~8月累計では90.8%と今一步の状況だ。

ところがVWは別格。6月5630台、7月4873台、8月3898台と3カ月連続で過去の月間最高記録を更新。1~8月累計では3万3632台と、前年同期比139.3%と前年を上回っているのはもちろん、08年比でも110.3%と好調な売れ行きになっている。これはいち早く、「ゴルフ」、「ゴルフヴァリアント」、「ポロ」といった主力モデルにエコカー減税&補助金対象モデルをラインナップしたことが大きな要因だが、販売ネットワークの底力も見せつけた形だ。

さらに9月30日まで、「VWオリジナル購入補助金」を実施。対象モデルはポロ、ゴルフ、ゴルフヴァリアントの一部グレードだが、期間内に契約し、11月末までに登録が完了すれば、10万円をサポートしてくれる。ポロなどは納車まで2カ月程度かかる状態だが、補助金制度終了でこの足を踏んでいたユーザーには朗報だろう。こうしたきめ細かいサービスもVWの強みの一つで、これが1~8月累計で海外メーカー製輸入車市場の販売シェア、過去最高となる29%獲得につながっている。

こうしたオリジナル補助金はフィアットジャパンも実施中。期間は9月30日までで「フィアット500」や「プントエヴォ」の対象モデルなら15万円のサポートが受けられる。お見逃しなく！

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報法務室 (pr@carview.co.jp)

tel: 03-5859-6158 fax: 03-5859-6180
